

MASTER VIEW USB KVM SWITCH



ユーザー マニュアル

CS-1708

CS-1716

注意

この装置は FCC(米国連邦通信委員会)規則、パート 15 の副章 J に従い、デジタル装置クラス B の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、本装置が一般家庭内で取り付けられたときに、有害な電波干渉が発生するのを防ぐために設定されています。また、本装置は高周波エネルギーを使用し、発生させることがあります。この操作マニュアルに従わずに本装置を取り付け、使用した場合、電波通信に有害な障害を起こすことがあります。但し、定められた取り付け方法に従えば、必ず電波障害が起こらないと保証するものでもありません。本装置がラジオまたはテレビの電波受信に有害な障害となっているかどうかは、本装置の電源を入れたり、消したりして、確認してください。また、以下のひとつまたは複数の方法に従って、電波障害の状況を改善されることを推奨いたします。

- ◆ 受信アンテナの向きを変えるか、位置を変えてください。
- ◆ 本装置と受信機の距離を離してください。
- ◆ 受信機が接続されているコンセントと異なる電気回路に本装置のコンセントを差し込んでください。
- ◆ 販売店または、十分な経験を有するラジオ/テレビの技術者にお問い合わせください。



同梱品

以下のものが同梱されているか、ご確認ください。

- ◆ CS-1708 又は CS-1716 KVM スイッチ X 1
- ◆ CS カスタム 2 - in - 1 KVM ケーブルセット (1.8m) X 2
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル X 1
- ◆ 電源アダプタ X 1
- ◆ ラックマウントキット X 1
- ◆ ユーザーマニュアル(本書) X 1
- ◆ クイックスタートガイド X 1

万が一製品や付属品の破損・不足がございましたら、お買い上げになった販売店までご連絡ください。

本装置と接続されたデバイスが破損するのを防ぐために、本ユーザーマニュアルをご使用前によくお読みになり、正しい手順に従って、インストールし、ご使用ください。

©Copyright 2004 ATEN® International Co., Ltd.

Manual Part No.PAPE-0228-1AT

Printed in Taiwan 04/2004

製品名等は、各社の商標または登録商標です。

目次

製品概要	7
製品特長	8
必要ハードウェア環境	9
はじめに	10
CS-1708/CS-1716 フロントパネル	10
CS-1708 / CS-1716 リアパネル	12
本製品のセットアップ手順	14
デジチェーン接続	16
ホットプラグ	18
ポートID 番号付け	19
電源オフ、再起動	19
ホットキー操作	20
ホットキーモードの呼び出し(HKM)	20
ホットキーによるポートのコントロール	21
オートスキャンモード	22
ホットキー設定	23
ホットキーモードのキー変更	23
OSD 表示のキー変更	23
プラットフォームセットアップ	24
その他の操作	25
キーボードエミュレーション	26
Sun キーボード	26
Mac キーボード	27
OSD 概要	28
OSD ナビゲーション	29
OSD メイン画面見出し	30
OSD ファンクション	30
◆ F1 GOTO	31
◆ F2 LIST	31
◆ F3 SET	32
◆ F4 ADM	34
◆ F5 SKP	38
◆ F6 BRC	38
◆ F7 SCAN	39
◆ F8 LOUT	40
ファームウェアアップグレードユーティリティ	41
アップグレード開始	42
アップグレード成功	45

アップグレード失敗	46
ファームウェアアップグレードリカバリー	47
付録	48
CS-1708 コンピュータ 接続表	48
CS-1716 コンピュータ 接続表	48
ログイン情報の消去	49
ラックマウント	50
仕様.....	51
工場出荷時設定	52
トラブルシューティング	53
製品保証規定	54

マニュアル表記について

本マニュアルは以下のルールに基づいて表記しています。

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のようにカッコ内にプラス記号を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

製品概要

マスタービュー CS-1708/CS-1716 KVM スイッチは 1 組のコンソール(キーボード、ビデオ、マウス)で複数のコンピュータへのアクセスを可能にするコントロールユニットです。

さらに 31 台のスイッチをデジチェーン接続で追加することによって、1 組の KVM コンソールから最大 512 台のコンピュータをコントロールすることができます。前面に設置された 7 つの LED インジケータで簡単にシステムの状態を知ることができます。オートスキャン機能は接続されたコンピュータまたはスイッチの位置を自動的に認識、従来のようにディップスイッチによって手動設定する必要がなくなりました。

CS-1708/CS-1716 は旧モデルに USB ポートを新たに搭載し、コンソールからの情報伝達の高速化を実現したモデルです。USB バスは従来の PS/2 よりも高い信頼性を持ち、マルチメディア USB キーボードにも対応しています。

CS-1708/CS-1716 は ATEN 製カスタム USB ASIC(特許出願中)を搭載しています。また CPU ポートに従来の 25 ピンに代わり SPHD-15 ピンコネクタを使用しているので、1U サイズラックに 16 ポートスイッチの導入が可能になりました。

CS-1708/CS-1716 はファームウェアアップグレードが可能です。ウェブサイトからダウンロードして、便利で簡単なユーティリティによってファームウェアを常に最新の状態に保つことができます

セットアップもすばやく簡単にできます。必要手順はケーブルを該当ポートに差し込むだけ。面倒な導入作業やソフトウェアのインストール、互換性の問題に悩まされることもありません。CS-1708 / CS-1716 に直接キーボードを接続するだけで複数の OS(Win、Mac、Sun)をコントロールすることができます。

接続されたどのコンピュータへも、キーボードのホットキー入力、または OSD(オンスクリーンディスプレイ)を使用して、簡単にアクセスすることができます。便利なオートスキャンシステムで、接続されている動作中のコンピュータの状態を 1 台ずつ自動的に監視・スキャンすることができます。

マスタービューCS-1708 / CS-1716 を導入するより、時間とコストを節約する方法は他にありません。1 組のコンソールで複数のコンピュータを管理できるマスタービューCS-1708 / CS-1716 を使用することにより、以下のことが可能になります。

- (1) 各コンピュータにそれぞれキーボード、マウス、モニタを購入する必要がなくなります。
- (2) それらの場所をとる余分な機械を設置するスペースを節約できます。
- (3) 電力費を節約できます。
- (4) 1 台のコンピュータから他のコンピュータへ度々移動する手間が省けます。

製品特長

- ◆ 1組のコンソール(USB キーボード、モニタ、USB マウス)で、CS-1708 は 8 台まで、CS-1716 は 16 台までのコンピュータがコントロール可能／デジチェーン接続で 31 台のユニットを追加すると、1 台のコンソールから最大 256 台(CS-1708)/512 台(CS-1716)のコンピュータをコントロール可能
- ◆ ソフトウェア不要の簡単インストール
- ◆ ホットプラグ対応—ステーション構成に変更が必要な時でも、システム全体の再起動不要、ポート ID 番号を自動再構成
- ◆ LED 表示により簡単に接続状態の監視が可能
- ◆ 選択されたコンピュータを自動でモニタリングするオートスキャン機能搭載
- ◆ ホットキーと OSD メニューによる簡単な操作
- ◆ マウス操作対応の OSD—ポートリストはステーションの追加を自動的に認識しポート番号を変更、メニュー画面は変更を即座に反映
- ◆ OSD、ホットキー操作による表示言語を選択可能
- ◆ キーボードとマウスのエミュレーションによりエラーなしでパソコンの起動が可能
- ◆ Microsoft Intellimouse™およびスクロールホイール機能付きのほとんどのマウスに対応—Logitech と Microsoft のワイヤレスキーボード、マウスにも対応
- ◆ マルチメディアキーボード対応
- ◆ アドミニストレーター/ユーザーの 2 レベルパスワードが高いセキュリティを実現—システムのどのステーションからでも管理者権限でログイン可能
- ◆ 2 タイプのログアウト方法—手動式およびタイムアウト
- ◆ VGA 解像度—2,048 × 1,536; DDC2B 準拠
- ◆ DDC エミュレーション—各コンピュータのビデオ設定は自動的に最適化されてモニタに出力
- ◆ ファームウェアアップグレード可能—デジチェーン接続を経由して、構成はそのままですべてのスイッチのファームウェアを同時にアップグレード可能
- ◆ マスタービュー CS-1216A KVM スイッチシリーズと下位互換
- ◆ マルチプラットフォーム対応—Win98 以降、Mac OS 8.6 以降、Sun Blade 2000/1000(Solaris 8)、Linux Red Hat 7.1 以降
- ◆ 19 インチシステムラックに 1U サイズで収納可能

必要ハードウェア環境

コンソール

- ◆接続するコンピュータの解像度に対応した VGA、SVGA、マルチシンクモニタ
- ◆USB マウス
- ◆USB キーボード

コンピュータ

以下の装置がコンピュータに接続されている必要があります

- ◆VGA、SVGA またはマルチシンクモニタ対応ビデオカード
- ◆type A USB ポート

ケーブル

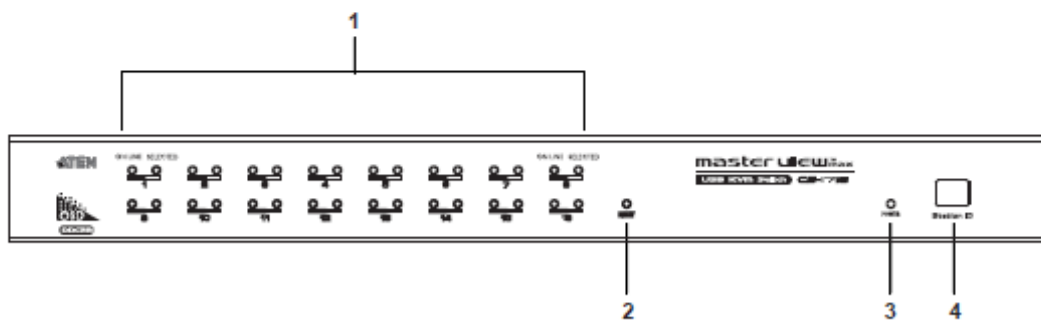
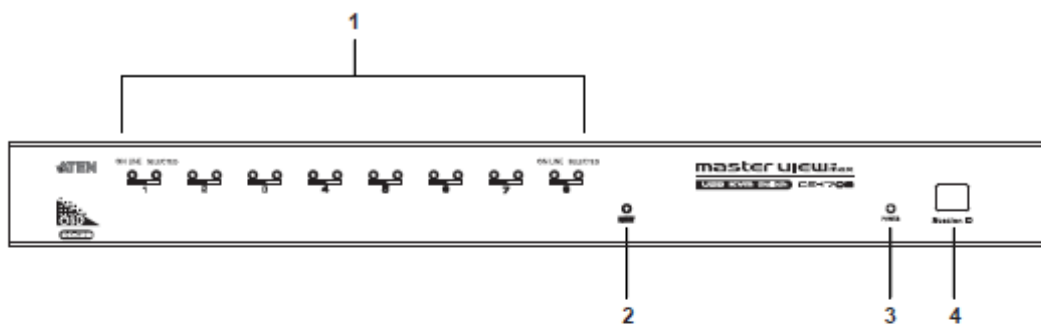
規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損したり、機器の性能が低下したりすることがあります。データを最適な環境で破損することなく送信するためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、以下に記載した高品質の CS カスタムケーブルセットをご使用になることを推奨いたします。

ケーブルタイプ	長 さ	型 番
デージーチェーン	0.6 m	2L-1700
デージーチェーン	1.8 m	2L-1701
USB KVM	1.2 m	2L-5201U
USB KVM	1.8 m	2L-5202U
USB KVM	3.0 m	2L-5203U

CS カスタム KVM ケーブルセットについてはお買い上げになった販売店までお問い合わせください。

はじめに

CS-1708/CS-1716 フロントパネル



1. ポート LED

ポート LED は対応する CPU ポートの状態を表示します。各ポートに 2 種類のポート LED がついています。左側の LED はオンライン LED、右側は選択ポート LED です。

◆ オンライン LED : オレンジ色のライトが点灯しているときは、接続されているパソコンのうち、電源が入っていて動作中のものを示します。

◆ 選択ポート LED : 緑色の LED ランプが点灯しているときは、対応するポートがついたコンピュータが KVM によって選択されていることを示します。通常の状態で使用されている場合で、LED ランプが点滅しているときはアクセスしているポートが現在、オートスキャンモード (P.39 をご参照ください) でスキャンされていることを示します。

◆ CS-1708/CS-1716 は初回電源投入時にスイッチ性能を自動検査します。検査中はオンライン LED と選択ポート LED が順に点滅します。

2. リセットスイッチ

このスイッチを押すと、システムをリセットします。

注意: このスイッチはピンホール型なので、ペーパークリップやボールペンの先端のような細いものを使って押してください。

3. 電源 LED

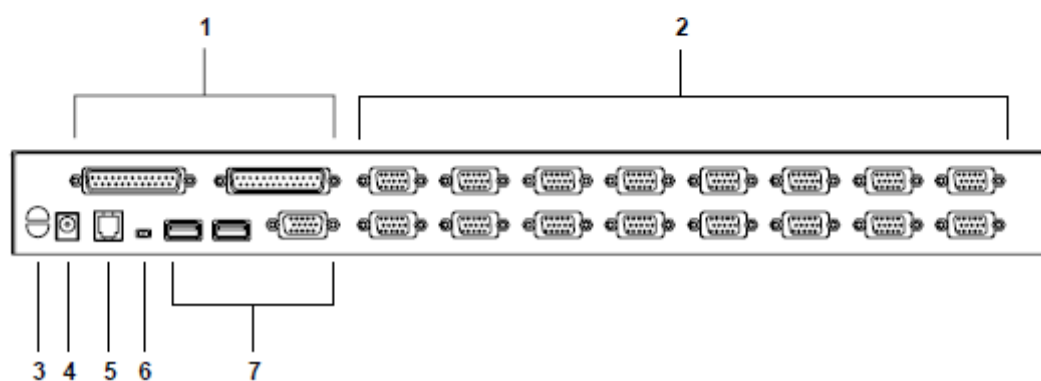
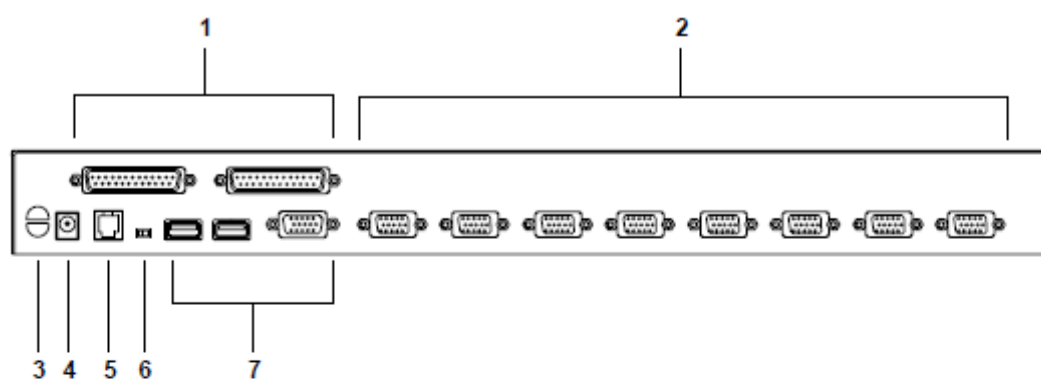
CS-1708/CS-1716 の電源がオンで、操作可能な状態になっていることを示します。

4. ステーション ID LED

CS-1708/CS-1716 のステーション ID はここに表示されます。1 台でのインストールの場合 (P.14 をご参照ください)、又は、デ이지チェーン接続での 1 段階目のステーションの場合 (P.16 をご参照ください) には、ステーション ID が 01 と表示されます。

デ이지チェーン接続によるインストールの場合、CS-1708/CS-1716 の自動感知機能はその段階を感知し、対応するステーション位置を表示します。(詳しくは P.19 ポート ID 番号付けをご参照ください。)

CS-1708 / CS-1716 リアパネル



1. デイジーチェーンポート

デイジーチェーン接続するときは、ケーブルをここに差し込んでください。右側のポートはチェーンアウトポート、左側はチェーンインポートです。

2. CPU ポートセクション

コンピュータに接続するケーブルはここに差し込んでください。

注意：この 15 ピンコネクタは、このスイッチのために設計された延長ケーブルが差し込めるように特別にデザインされたものです。従って、このポートをコンピュータに接続する際、通常の 15 ピン VGA 接続ケーブルはご使用にならないでください。

3. ケーブルタイスロット

ケーブルをまとめたり、束ねたりする場合はこのスロットを使用してください。

4. 電源ジャック

電源アダプタケーブルはここに差し込んでください。

5. ファームウェアアップグレードポート

ファームウェアアップグレードの際は RJ-11 ケーブルをここに差し込んでください。詳細は P.41 をご参照ください。

6. ファームウェアアップグレード リカバリースイッチ

通常操作およびファームウェアアップグレード中は、このスイッチを NORMAL ポジションに設定しておいてください。スイッチの詳細については P.47 をご参照ください。

7. コンソールポート部

1 台でのインストールの場合、又は、デイジーチェーン接続の 1 段階目の接続の場合、ここに USB キーボード、モニタ、USB マウスのプラグをここに差し込んでください。

本製品のセットアップ手順

セットアップの前に



1. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。
2. コンピュータやデバイスへのダメージを避けるために、接続されているすべてのデバイスが正しくアースされているか確認してください。

1 段階接続セットアップ(単体利用時)

次ページの接続図を参考にして、以下の手順によってセットアップを進めてください。

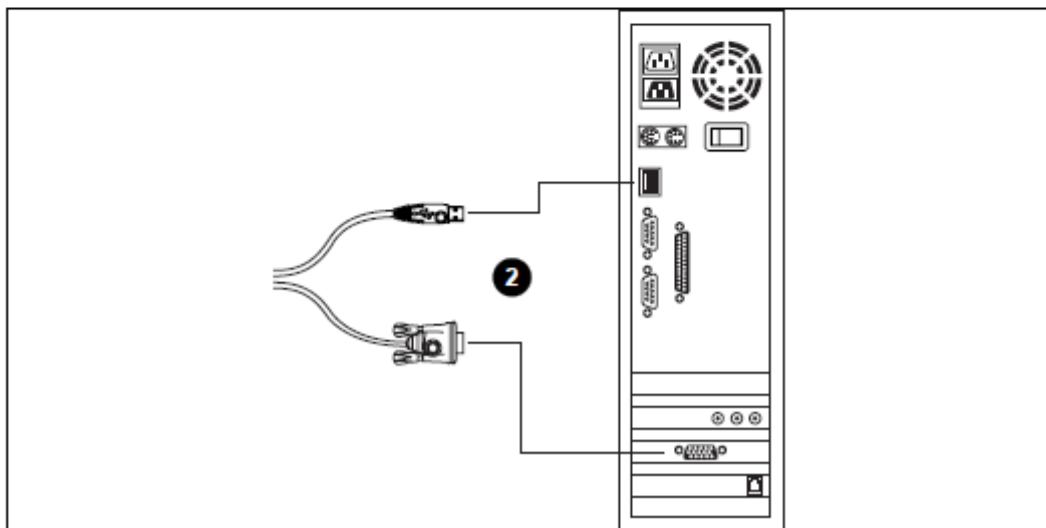
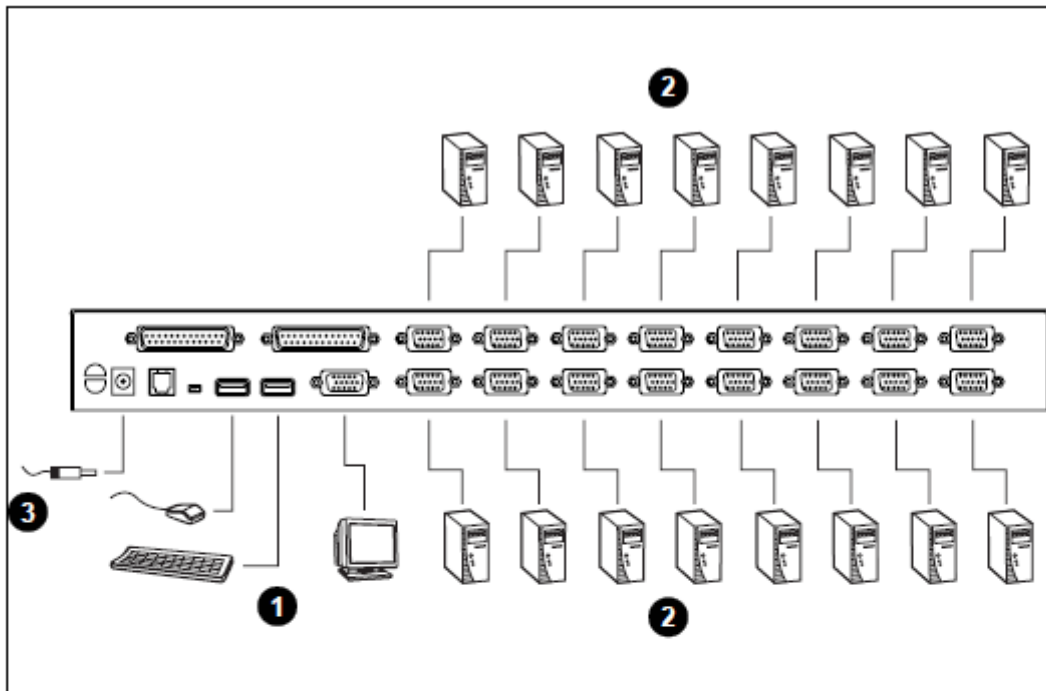
1. ユニットの背面にあるコンソールポートに USB キーボード、USB マウス、モニタを接続してください。
2. カスタム KVM ケーブルセットを使用して、接続可能な CPU ポートを今から接続するコンピュータのキーボード、モニタ、マウスポートに接続します。

注意:

- ・本製品には 2 本のケーブルセットが同梱されていますが、もし追加のケーブルセットが必要な場合は別途お買い求めください。詳細は P.4 のケーブルの項をご参照ください。
- ・15 ピン CPU ポートコネクタは KVM ケーブル専用設計されたものです。通常の 15 ピン VGA ケーブルを接続しないでください。

3. マスタービュー本体の電源ジャックに電源アダプタのケーブルを差し込んでください。次に AC 電源に電源アダプタを差し込んでください。

これで 1 台での接続が完了です。コンピュータの電源をオンにして正しく動作するか確認してください。



デージーチェーン接続

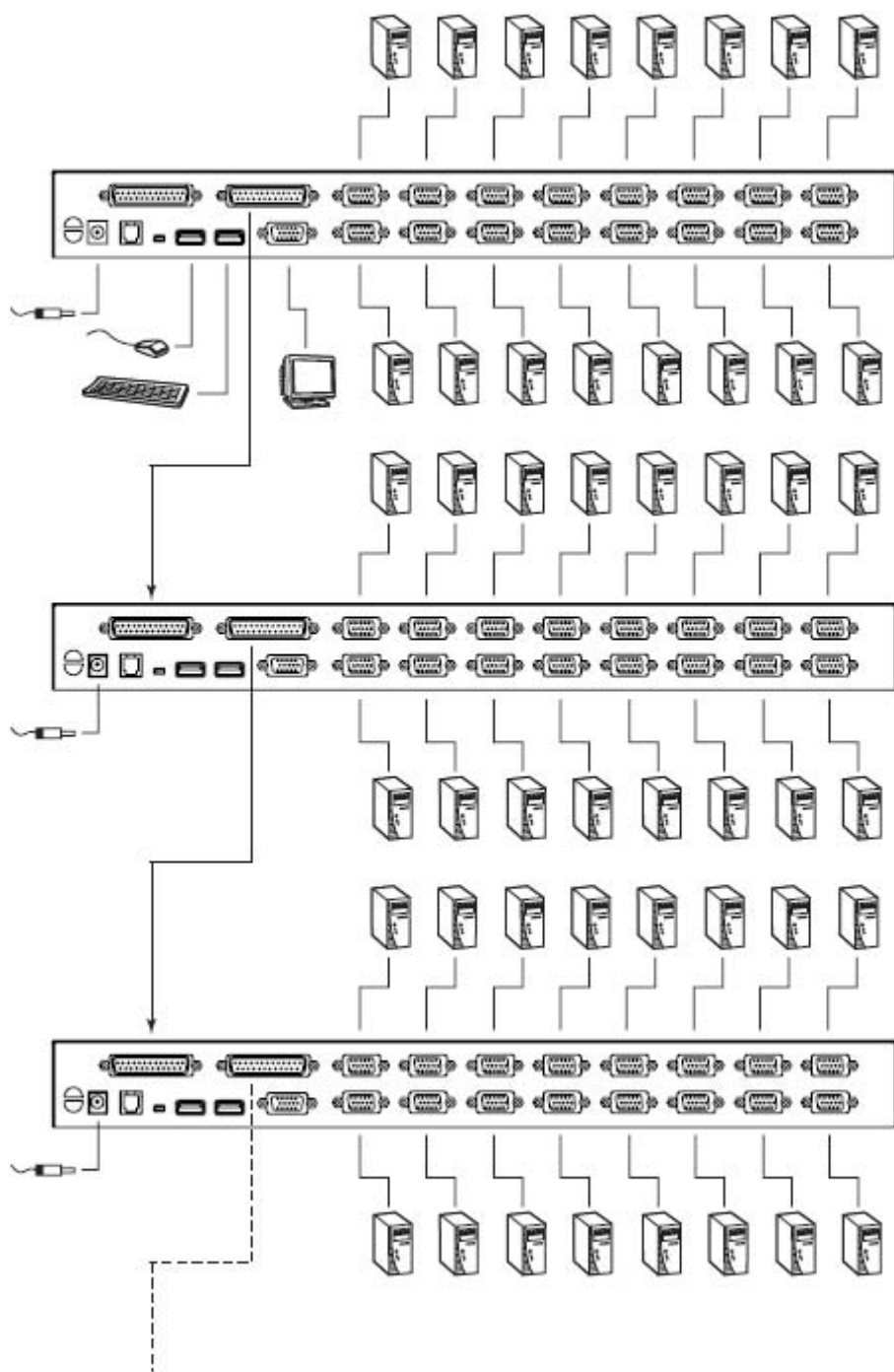
より多くのコンピュータをコントロールするために、最大 31 台までのマスタービューCS-1708/CS-1716 を使用してデージーチェーン接続が可能です。以下の接続方法によって、最大 512 台ものコンピュータが 1 組のコンソールでコントロールできます。P.45 の付録に、コンピュータと CS-1708 / CS-1716 の最大接続可能数を記載しています。

デージーチェーン接続のセットアップ方法は以下の通りです。

1. 接続するすべてのデバイスの電源がオフになっていることをお確かめください。
2. デージーチェーンケーブルセット(P.9 のケーブル表を参照)を使用して、親機の CS-1708 / CS-1716 のチェーンアウトポートを子機の CS-1708 / CS-1716 チェーンインポートに接続してください。より多くのユニットを接続するには、この手順を繰り返してください(1 段階目のステーションのチェーンアウトポートを 2 段階目のステーションのチェーンインポートに、2 段階目のステーションのチェーンアウトポートを 3 段階目のステーションのチェーンインポートに接続する…)

注意：親機となる 1 段階目のステーションのチェーンインポートは使用しません。

3. カスタムケーブルセット(P.9 のケーブル表を参照)を使用して、接続するコンピュータのキーボード、モニタ、マウスの各ポートと、CS-1708 / CS-1716 の CPU ポートを接続してください。
4. 以下の手順に従って、取り付けられた装置に電源を入れてください。
 - (1)第 1 ステーションの電源アダプタを差し込んでください。装置がそのステーション ID を確認し、それをステーション ID LED に表示する(第 1 段階のユニットのステーション ID は 01、第 2 段階のユニットには 02、第 3 段階のユニットには 03 等)まで、しばらくそのままお待ちください。
 - (2)第 2 ステーション、第 3 ステーションというように、順に各ステーションの装置の電源アダプタを差し込んでください。次のステーションを差し込む前に、それぞれ、ステーション ID が確認され、ステーション ID LED ランプにそれが表示されるまで、お待ちください。
 - (3)全てのステーションの接続が完成した後、コンピュータに電源を入れてください。



ホットプラグ

CS-1708 / CS-1716 はホットプラグ機能(ユニットの電源を切らずに、ポートに接続されたデバイスを取り外したり、新たに追加したりできる機能)があります。このホットプラグ機能を適切に機能させるためにも、以下の手順を厳守してください。

◆ ステーション位置の変更

古い親機からプラグを抜き、新しい親機に差し込むだけの簡単操作で、ステーション位置の変更ができます。

◆ CPU ポートへのホットプラグ機能

OSD メニューを接続機種の変更に対応させるには、OSD で表示される情報を手動で新しいポート情報に変更しなければなりません。詳しくは、P.33 の F3 SET 機能のスキャン/スキップモード、P.34 の F4 ADM の章をご参照ください。

注意: ご使用のコンピュータの OS がホットプラグ機能をサポートしていない場合、この機能は適切に機能しません。

◆ コンソールポートへのホットプラグ機能

キーボード、モニタ、及びマウス全てはホットプラグ対応可能です。マウスをホットプラグするには;

1. 同じ機種のマウスを使用する場合は、自由にマウスの抜き差しができます。
2. 異なる機種のマウスを使用する場合は、ステーションと接続されているコンピュータ全てを 10 秒間シャットダウンし、その後、P.16 ステップ 4 に記載されている再起動の手順を行う必要があります。

注意: ホットプラグ後、接続したキーボードまたはマウスが反応しない場合、リセットスイッチ(P.11 参照)を押してキーボードとマウスをリセットしてください。

ポート ID 番号付け

マスタービューで接続された各 CPU ポートには、個別にポート ID が割り当てられています。このポート ID はステーション番号とポート番号の 2 つの番号で構成されています。

- ◆ ステーション番号—CS-1708/CS-1716 のデ이지チェーンの接続位置を表示する 2 桁の数字。これは、フロントパネルのステーション ID LED ランプに表示された番号と対応しています。
- ◆ ポート番号—コンピュータが接続された CS-1708/CS-1716 ステーションのポートを示す 2 桁の数字。
- ◆ ステーション番号—ポート番号の順に表示されています。
- ◆ 1～9 までのステーション及びポート番号は、十の位に 0 がつきます。従って、01～09 と表示されます。例えば、ステーション 12 のポート 6 に接続されたコンピュータのポート ID は 12-06 となります。

電源オフ、再起動

ユニットの電源を切る必要がある場合、まず電源ジャックから電源ケーブルを抜いてください。それから以下の手順に従って再起動してください。

1. 電源を切るユニットに接続している全てのコンピュータをシャットダウンしてください。

注意：キーボード起動機能があるコンピュータは全ての電源コードを抜いてください。そうしないと、ユニットはコンピュータから電源を受けている状態のままになっています。

2. ユニットの電源ジャックを抜き、電源をオフにします。10 秒ほど待つてから、ユニットとコンピュータを再び接続してください。

3. ユニットの電源を接続します。CS-1708/CS-1716 起動後、コンピュータの電源を入れてください。

注意：もし 2 台以上のステーションをシャットダウンした場合は、まず最上位のステーションの電源を入れ、その後、順に接続の上位から下位へと電源を入れていってください。

ホットキー操作

CS-1708 / CS-1716 はホットキー機能により、コンソールからの非常に簡単な操作を実現しています。これらすべてのホットキーを使用する前に、まずホットキーモードを有効にしなくてはなりません。

ホットキーモードの呼び出し(HKM)

すべてのホットキー操作はホットキーモード(HKM)を呼び出してから行います。呼び出しは以下の手順に従ってください。

1. [Num Lock]キーを押したまま、
2. [-]マイナスキーを押し、すぐに離します。
3. [Num Lock]キーを離します。

[Num Lock] + [-]

注意:

1. マイナスキーは 1.5 秒以内に離してください。押しっぱなしにしていると操作がキャンセルされ、無効となります。
2. P.23 に他の呼び出し操作方法が説明されています。

ホットキーモードが有効になったら:

◆ホットキーモードが有効であることを示すのに、[Caps Lock] ・ [Scroll Lock]の LED が交互に点灯します。ホットキーモードを解除すると消えます。

◆コマンドラインはモニタに表示されます。入力されたホットキー情報は青色の背景に黄色の文字でコマンドラインに表示されます。

◆ホットキーモードの間、通常のキーボード、マウス操作は無効になっており、次章で説明されているホットキー操作が対応しているキーボード、マウス入力のみが有効です。

◆ホットキー操作のうちいくつかは、操作完了後自動的にホットキーモードが解除されるようになっていますが、手動で解除する場合には、[Esc]キーかスペースキーを押してください。

ホットキーによるポートのコントロール

ホットキーポートコントロールとは、ホットキー操作によって表示するコンピュータを選択する機能です。
CS-1708 / CS-1716 は以下の機能を備えています：

- ◆ ポート ID 番号指定
- ◆ オートスキャンモード

◆ ポート ID 番号指定

ホットキーの組み合わせによって、割り当てられているポート番号を直接指定して操作するコンピュータを選択することができます。

1. ホットキーモードを有効にします (P.20 を参照)。
2. コンピュータの ID 番号を入力します。

入力されたポート ID 番号はコマンドラインに表示されます。間違った場合は[Backspace]キーで戻せます。

3. [Enter]キーを押します。

[Enter]キーを押した後、指定したポート ID 番号のコンピュータに切替わり、ホットキーモードは自動的に解除されます。

オートスキャンモード

CS-1708 / CS-1716 のオートスキャン機能は KVM スイッチに接続され、ユーザーがアクセス可能なアクティブな CPU ポートを一定の間隔で切替えてモニタに表示する機能です。スキャンモードについては P.33 の OSD F3 SET をご参照ください。

オートスキャンを開始するには以下の手順でホットキー操作を行ってください。

1. ホットキーモードを有効にします (P.20)
2. [A]キーを押してください。

[A]キーを押下した後、ホットキーモードは自動的に解除されてオートスキャンモードに移行します。

3. オートスキャンモードを解除するには、[Esc]キーまたはスペースキーを押すか、マウスを右クリックしてください。

注意: オートスキャンモードが有効になっているとき、通常のキーボード、マウス操作は無効になっており、オートスキャンモードが対応するキーボード、マウス入力のみが有効です。コンソールにおいて通常の入力が必要になった場合、オートスキャンモードを解除しなくてはなりません。

オートスキャンモード中に特定のコンピュータにフォーカスする場合、該当するコンピュータ画面が表示されている間に[P]を押すか、マウスで左クリックをしてください。

この操作によってオートスキャンが一時停止されている間は、コマンドラインの表示は

Auto Scan : Paused

となっています。

一時停止機能は、再開時に元の位置からのスキャン開始となるので便利です。オートスキャンモードを解除してしまうと、次回スキャン時には接続されたポート ID の最初からとなります。

一時停止後、オートスキャンモードを再開する場合には任意のキーを押せば、スキャン停止した位置から再開します。

ホットキー設定

ホットキーモードのキー変更

デフォルトで設定されているホットキー入力に使用するキーが、コンピュータで動作している他のプログラムの操作と競合して不具合のある場合を考慮し、キー入力組み合わせは変更可能になっています。

他の設定を使用するには以下の手順に従ってください。

1. ホットキーモードを有効にします (P.20)

2. [H]キーを押し、すぐに離してください。

この操作によってホットキー入力に使うキーが

[Num Lock]→[Ctrl]

[–]マイナスキー→[F12]

に変更されます。

注意: この操作はホットキーに関連してあらかじめ用意された 2 種の設定を交互に切り替えるものです。前の設定に戻すには 1,2 の手順をもう一度行ってください。

OSD 表示のキー変更

OSD 起動には[Scroll Lock]キー2 度押し/[Ctrl]キー2 度押しの 2 種の方法が用意されています。デフォルトでは[Scroll Lock]キー2 度押しです。OSD 起動方法を[Ctrl]キー2 度押しに変えるには以下の手順に従ってください。

1. ホットキーモードを有効にします (P.20)

2. [T]キーを押し、すぐに離してください。

注意: この操作は用意された 2 種の設定を交互に切り替えるものです。前の設定 ([Scroll Lock]キー2 度押し)に戻すには 1,2 の手順をもう一度行ってください。

プラットフォームセットアップ

CS-1708 / CS-1716 のデフォルト状態は、Windows(DOS/V 互換)のキーボード設定になっています。以下の表を参照し、ホットキーの組み合わせにより KVM がフォーカスする各ポートのプラットフォームに対応した設定が可能です。

キー	操 作
[F1]	選択されたポートは、PC 互換(DOS/V 互換)のキーボードに設定されます
[F2]	選択されたポートは、Mac 対応のキーボードに設定されます
[F3]	選択されたポートは、Sun 対応のキーボードに設定されます
[R] [Enter]	リセット: KVM 設定はデフォルト状態に戻ります

ホットキーによるセットアップ方法:

1. HKM を有効にしてください(P.20 を参照)。
2. 必要なファンクションキー(上記表を参照)を押して、すぐに離してください。

設定完了後はホットキーモードが自動的に解除されます。

その他の操作

ホットキーには USB をリセットする機能や、ビープ音のオン/オフも可能です。オン/オフの設定は繰り返し設定可能です。設定方法は下記をご参照ください:

1. HKM を有効にしてください(P.20 参照)。
2. 必要なファンクションキー(下記表を参照)を押して、すぐに離してください。

キー	操 作
[F5]	USB をリセットします
[B]	ビープ音のオン/オフ コマンドラインには Beeper On/Beeper Off が 1 秒間表示され、ホットキーモードの解除と共に表示が消えます。

設定完了後はホットキーモードが自動的に解除されます。

キーボードエミュレーション

Sun キーボード

コンソールが PC 互換キーボード(101/104 キー)であっても、エミュレーション機能により Sun キーボードの特殊キーを[Ctrl]キーとの組み合わせにより使用可能になります。詳細は下記の表をご参照ください。

注意:

[Ctrl]キーとの組み合わせを使用する場合、[Ctrl]キーを押して離し、その後アクティベーションキーを押してすぐに離してください。

PC キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
App	Compose
Win Key	◆

Mac キーボード

コンソールが PC 互換キーボード(101/104 キー)であっても、エミュレーション機能により Mac キーボードの機能を使用可能になります。詳細は下記の表をご参照ください。

注意:

他キーとの組み合わせを使用する場合、[Ctrl]もしくは[Alt]キーを押してすぐに離し、その後アクティベーションキーを押してすぐに離してください。

PC キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
[Win]	
F12	
[Alt]	左 Alt/オプション
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
[Desktop Menu]	=
[Enter]	Return
[Back Space]	Delete
[Ins]	Help
[Ctrl] [Desktop Menu]	F15

OSD 概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)を使ってすべてのコンピュータを操作することができます。これらの操作はすべて OSD メインメニューから実行します。OSD 画面を呼び出すには、まず[Scroll Lock]キーを 2 度押してください。

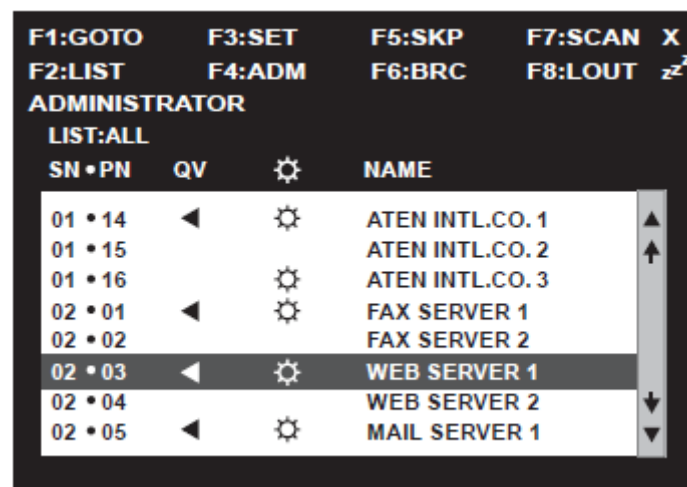
注意:

OSD 表示のホットキーを[Ctrl]キーに変更できます(OSD ホットキーの詳細は、P.37 を参照)。**[Ctrl]**キーの 2 度押しの際は、キーボードの同じサイドに位置する**[Ctrl]**キーを押してください(左側を 2 回、もしくは右側を 2 回)。

OSD では、2 つのレベル(アドミニストレーター/ユーザー)の権限を設定することが可能です。**[Scroll Lock]**キーを 2 度押すと、OSD メインメニューが表示される前にユーザーネームとパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。OSD メインメニューにアクセスするためには、これらを入力する必要があります。

OSD 初回起動時やパスワードの設定がされていない場合、ダイアログボックスには何も入力せず、**[Enter]**キーを 2 度押してください。OSD メインメニューはアドミニストレーターの権限で起動し、すべての OSD ファンクションが使用可能になります。

OSD 画面の実行時は、以下のように表示されます:



以下の点にご注意ください。

1. 図はアドミニストレーター権限でログインしたメイン画面です。ユーザー権限でログインした場合には、F4 ADM が表示されません。
2. OSD 画面は常にリストビューの状態が始まります。リストのハイライトバーは前回最後に表示されていた位置と同じ位置で表示されます。
3. アドミニストレーター権限にてアクセス可能なポートを設定した場合、そのユーザーがアクセス可能なポートのみがリストに表示されます(アクセスポートの設定詳細は、P.36 を参照)。

OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリック、もしくは[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する F8:LOUT をクリック、もしくは[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリック、もしくはキーボードの上下の矢印キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、上下の矢印(↑↓)をクリック、もしくは[Page Up][Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切替える場合は、選択先のポートをダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの実行後は、自動的にメニューは 1 段階上の状態に戻ります。上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリック、もしくは上下の矢印キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、上下の矢印(↑↓)をクリック、もしくは[Page Up][Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切替える場合は、選択先のポートをダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの実行後は、自動的に 1 段階上のメニューに戻ります。

OSD メイン画面見出し

見出し	説 明
SN-PN	この項目は(ステーション番号+ポート番号)のポート ID 番号(ポート ID 番号の詳細は、P.19 を参照)です。すべての CPU ポートがポート ID 番号を持ちます。リストのハイライトバーを移動し[Enter]を押すと、画面はそのポートに接続されたコンピュータに切替わります。
QV	クイックビュー時に表示するポートを選択(クイックビューポート設定の詳細は、P.36 を参照)すると、QV の列には三角の印が表示されます。
	ポートにコンピュータが接続されていて、なおかつコンピュータの電源がオンのとき、太陽マークが表示されます。
Name	ポートに対して名前を登録(ポート名前編集の詳細は、P.35 を参照)した場合、この列にポート名前が表示されます。

OSD ファンクション

OSD ファンクションでは、OSD の設定と操作を行います。OSD ファンクションによって、任意のポートへ瞬時に切替え、指定したポートのみスキャン、指定したリストのみ表示、クイックビューポートの表示、ポート名前の設定、OSD の設定等ができます。

OSD ファンクションへのアクセス:

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリック、もしくはキーボード上のファンクションキーを押します。
2. サブメニューが表示されますので、選択しダブルクリック、もしくはキーボードからハイライトバーを移動、選択し[Enter]を押します。
3. [Esc]キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

◆ F1 GOTO

GOTO 機能により、直接ポートネーム、もしくはポート ID 番号を入力することで、ポート切替えが可能です。

- ◆ ポートネームを使用する場合、[1]キーを押し、ポートネームを入力後[Enter]を押してください。
- ◆ ポート ID 番号を使用する場合、[2]キーを押し、ポート ID 番号を入力後[Enter]を押してください。

注意: ポートネーム、もしくはポート ID 番号の最初の文字を入力すると、該当するポートがスクリーンにリスト表示されます(アクセスポートの設定詳細は、P.36 を参照)。ポートネームとポート ID 番号のリスト表示は設定に依存します(詳細は、本頁次項参照)。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc]キーを押してください。

◆ F2 LIST

この機能を用いて、OSD がメインメニューで表示するポートの範囲を設定できます。OSD ファンクションの多くは、メインメニューでリスト表示されているポートだけを操作します。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

選 択 肢	意 味
ALL	設置されているポート全てをリストアップします。
QUICK VIEW *	クイックビューポート(P.36 を参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON	コンピュータが接続されていて、そのコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(P.36 を参照)として選択され、かつ、コンピュータが接続されていて、そのコンピュータの電源がオンになっているポートをリストアップします。

* この項目の設定はアドミニストレーターの画面でのみ表示され、クイックビューの設定が反映されます(詳細は、P.36 を参照)。

選択したいポートにハイライトバーを移動して、その後[Enter]キーを押してください。切替わるとアイコンが現われ、現在選択したポート ID を表示します。

選択し[Enter]を押した後、ディスプレイ表示は OSD メインメニューに戻ります。

◆ F3 SET

この機能はアドミニストレーター権限および各ユーザーの権限でログイン時の環境設定を行います。それぞれのプロファイルは OSD 内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。

設定変更について:

1. OSD 画面で「F3:SET」の文字をダブルクリック、もしくはハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。
2. 次に表示されたサブメニューの、変更したい項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動して[Enter]キーを押します。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下記のリストをご参照ください:

設 定	機 能
OSD HOTKEY	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピュータの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトは[Scroll Lock]キー2度押しになっています。
PORT ID DISPLAY POSITION	画面上の、ポート ID 表示位置を設定します。デフォルトでは画面の右上ですが、任意の位置にポート ID を表示することができます。 ポート ID の表示位置を決めるには、マウスまたは矢印キーと[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を用います。それから、ダブルクリックまたは[Enter]を押して位置を定め、F3 SET のサブメニュー画面に戻します。 注意:ポート ID 表示位置は、ポート別に独立して設定可能です。ここで設定された表示位置は、アクティブなコンピュータのみで反映されます。
PORT ID DISPLAY DURATION	ポートの変更が行われた後、モニタ画面にポート ID を表示する時間を設定します。 User Defined: ユーザー設定 (1~255 秒間) Always On: ポート ID を常に表示 User Defined を選択した場合は、秒数を入力しその後[Enter]を押してください。デフォルトでは 3 秒間です。

(表は次ページに続きます)

(F3 SET の表、続き)

設 定	機 能
PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID 表示方法を選択します。ポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポートネームのみ (PORT NAME)、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) があります。デフォルトは、ポート番号とポートネームの組み合わせです。
SCAN DURATION	オートスキャンモード (P.39 をご参照ください) で、各ポートに接続されたコンピュータの表示のインターバル時間を設定します。1～255 秒までの数値を入力し、その後 [Enter] を押してください。デフォルトは 5 秒間です。0 秒で設定すると SCAN 機能を使用不可にします。
SCAN/SKIP MODE	オートスキャンモード (P.39 をご参照ください) で、どのコンピュータにアクセスするかを選択します。設定は、 ALL — アクセスできるように設定された全てのポート (P.36 をご参照ください) POWERED ON — アクセス可能かつ接続されたコンピュータの電源がオンになっているポートのみ QUICK VIEW — アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート (P.36 をご参照ください) のみ QUICK VIEW + POWERED ON — アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されたコンピュータの電源がオンになっているポートのみの 4 つがあります。デフォルトは、ALL です。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールから入力されていない場合、画面はブランクになります。1～30 分の時間を入力してから、[Enter] を押します。0 分で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 0 分 (不可) となっています。
HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー操作がコンピュータで動作中のプログラムと競合がある場合などに、ホットキーコマンドの使用可能/不可を切り替えます。デフォルトでは ON 使用可能になっています。
HOTKEY	ホットキーモードを有効にする際に使用するホットキーを選択します (P.20 参照): [Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] です。デフォルトは [Num Lock] + [-] になっています。

◆ F4 ADM

F4 ADM はアドミニストレーターののみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレータは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4 ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]を押します。

項目選択後、F4 ADM ファンクションのサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、または、ハイライトバーをそこまで動かした後、[Enter]を押します。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設 定	機 能
SET USERNAME AND PASSWORD	この機能でアドミニストレータおよびユーザーの、ユーザーネーム/パスワードを設定します。 1. アドミニストレータ1 人およびユーザー4 人のパスワードを設定します。 2. ユーザーフィールドまたはアドミニストレータフィールドのうち、1 つを選択した後、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザーネームとパスワードは英数字(A～Z, 0～9)最大 12 文字までの組み合わせが可能です。フィールドを切替えるには、[Tab]キーまたは上下の矢印キーを使用します。 3. 各人のユーザーネームとパスワードを入力しパスワードを確定した後、[Enter]を押します。 4. 以前のユーザーネームまたはパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字を、バックスペースキーを用いて消してください。
SET LOGOUT TIMEOUT	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合にそのオペレータは自動的にログアウトされます。コンソールを再び使用する前には、ログインが必要となります。この機能はオペレータがもうコンピュータにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピュータにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1～180 分までの数値を入力し、[Enter]を押します。0 分で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 0 分(不可)となっています。

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
EDIT PORT NAMES	どのポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。この機能により、アドミニストレータはポートネームを設定したり、編集したり、削除したりすることができます。 注意: 現在 OSD 画面でリストビューとして選択されているポートのみがここで表示されます。 ポートネームを編集するには: 1. 編集したいポートをクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]を押します。 2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正または削除してください。ポートネームの最大文字数は 12 文字で、英数字(a~z、0~9)と、記号(+、-、/、コロン、ピリオド、スペース)が使用できます。大小文字は区別されません。OSD ではポートネームはすべて大文字で表示されます。 3. ポートネームの編集を終えたら、[Enter]を押してその変更を有効にしてください。変更を途中で止める際には、[Esc]を押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	この機能は、ポート識別を補助するポートネームの設定及びクイックビュー設定を除いて、変更された設定全てを元に戻し、元のデフォルト値に戻します。
CLEAR THE NAME LIST	この機能は RESTORE DEFAULT VALUES とよく似ていますが、異なる点に変更された設定全てを元に戻すとともに、ポートネームとクイックビュー設定もすべて削除します。
ACTIVATE BEEPER	ビープ音の設定を行います。Y(有)または、N(無)を選んでください。Y を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(P.42 をご参照ください)が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力された時にビープ音が鳴ります。デフォルトは Y (有)となっています。

(この表は次ページに続く)

設 定	機 能
SET QUICK VIEW PORT	どのポートをクイックビューポートとして選択するかを設定します。この機能はアドミニストレータのみが設定できます。 注意: 現在 OSD 画面でリストビューとして選択されているポートのみがここで表示されます。 ◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使用してハイライトバーをそこへ移動させた後、[スペースキー]を押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」列に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。 ◆ LIST (P.31 をご参照ください) でクイックビューオプションのひとつが選択された場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ オートスキャン (P.42 をご参照ください) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 デフォルトはどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。
SET ACCESSIBLE PORT	この機能でアドミニストレータはポートごとにユーザーのアクセス権を決定できます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、その後、[スペースキー]を押して、F(フルアクセス)、V(見るのみ)または、BLANK(ブランク)という選択を循環させます。全てのアクセス権を設定するまでこの作業を繰り返し、設定が終わったら[Esc]を押します。デフォルトでは、全てのポートが全てのユーザーに対し F(フルアクセス)となっています。 注意: ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストでも表示されません。

設 定	機 能
RESET STATION IDS	デジチェーン接続されたステーションを変更した場合、OSD 画面では新たに接続されたステーションが反映されません。この機能はすべてのポートを再スキャンし、ステーションの物理的構成を反映するようにします。 注意: この機能ではステーション番号だけがアップデートされます。ポートネームを除いて、アドミニストレーター権限によるすべての設定変更(アクセス可能なポート設定、クイックビューポートなど)はそのまま引き継がれるので、手動で再設定する必要があります。
SET OPERATING SYSTEM	この機能により、各ポートに接続されたパソコン側の OS 設定をします。ポート選択後に[スペースキー]を押して、OS の設定(Win、Sun、Mac、SPC*)をします。各ポートに対し繰り返しこの設定を行い、すべての設定を終えたら最後に[Esc]キーを押します。デフォルト状態では PC 互換になっています。
FIRMWARE UPGRADE	CS-1708/CS-1716 のファームウェアをアップグレードする場合は、はじめにファームウェアアップグレードモードに設定します。(詳細は、P.37 参照)
KEYBOARD LANGUAGE	この機能により、各ポートに接続されたパソコン側のキーボード言語の設定をします。選択は: 自動、英語、フランス語、ドイツ語、日本語です。自動(デフォルト)に設定すると接続されたコンピュータの設定に従います。

* 注意

- 1) PC は PC 互換機を指します。この設定は Sun や Mac などの OS ではなく、PC 互換機のものであります。
- 2) Sun や Mac のコンピュータを導入しているならば、コンピュータを接続して起動する前に、この機能を使用して各ポートに接続された OS を正しく指定してください。そうしないと正常に起動しません。
- 3) SPC 設定は「Special Case/その他」です。もし Win/Sun/Mac 以外の OS をご使用になる場合(例: Free BSD)、このオプションを指定してください。もし問題が起きた場合はテクニカルサポートにお問い合わせください。

◆ F5 SKP

OSD 画面で **F5 SKP** の文字をクリックするか、または、**[F5]**を押して、スキップモードを呼び出します。この機能により、コンピュータが接続されている、前後の有効なポートに簡単にスキップすることができます。

◆ スキップモードによる切替えを利用するコンピュータの選択には、**F3 SET** 機能 (P.32 をご参照ください) の、**SCAN/SKIP MODE** 設定にて行ないます。

◆ スキップモードの時、左右の矢印キー、**[←]**を押すと、リスト中の前のコンピュータに切り替わり、**[→]**を押すと、リスト中の次のコンピュータに切り替わります。上下の矢印キー、**[↑]**を押すと、リスト中の前のステーション、**[↓]**を押すと、リスト中の次のステーションに切り替わります。

注意: スキップする時は、スキャン/スキップモード選択 (P.32 をご参照ください) の中で利用できる前後のコンピュータへスキップできます。

◆ もし、ポートがスキャン/スキップモードとして選択されていたならば、ポート ID ディスプレイの前に左/右向き三角形が表示されます。(フォーカスがそのポートに切り替わるとき)

◆ スキップモードが有効になっている時には、コンソールは機能しません。コンソールを使用するには、スキップモードを解除してください。

◆ スキップモードを解除するには、**[スペースキー]**または**[Esc]**を押してください。

◆ F6 BRC

F6 はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。OSD 画面で **F6 BRC** の文字をクリックするか、**[F6]**を押して、ブロードキャストモードを呼び出してください。この機能が有効になっている時、コンソールから送られたコマンドは接続中の利用できるコンピュータすべてに対し実行されます。

この F6 BRC ブロードキャストモードは、広くシステムをシャットダウンさせたり、アップグレードさせるソフトウェアをインストールしたりするなどの、複数のコンピュータを操作する必要がある時に非常に便利な機能です。

F6 BRC ブロードキャストモードは、F2 LIST 機能とあわせて使用されます。F2 LIST 機能 (P.21 をご参照ください) は OSD メイン画面に表示されているポートの範囲を設定します。ブロードキャストモードのコマンド実行対象となるのは、OSD メイン画面で表示されているポートです。

◆ BRC モードが有効な時は、現在コンソールでフォーカスされているポートのポート ID ディスプレイの前にスピーカーマークが表示されます。

◆ BRC モードが有効な間は、マウスは機能しません。マウスを使用するときは、BRC モードを解除してください。

◆ BRC モードを解除するには、OSD メイン画面を呼び出し、それから **F6 BRC** の文字をクリックするか、**[F6]**を押してください。

◆ F7 SCAN

F7 SCAN スキャン機能では手動で切り替え作業をすることなく、稼動中のコンピュータを一定の間隔で自動切り替え、監視することができます。

◆ オートスキャン時に表示するコンピュータは、スキャンモード設定の F3 SET (詳細は、P.32 参照)から選択します。

◆ オートスキャンモード中はキーボードの Num Lock、Caps Lock LED が交互に点滅します。

◆ それぞれのポートを表示する時間間隔の設定は、Scan Duration (スキャン期間) 設定で行い、F3 SET から設定します。スキャンを中止し、特定のポートに切り替える場合は、そのポート表示中に[スペースキー]を押してください。

◆ スキャンしているポートが、コンピュータが接続されていない、もしくは接続されたコンピュータの電源がオフの場合は、モニタに何も表示されません。マウスとキーボードで入力しても何も反応しません。Scan Duration より設定された表示時間経過後、スキャンは次のポートに切り替ります。

◆ オートスキャンモード中に[S]キーを押すと、現在アクセスしているポート ID が表示されます。

◆ 特定のポート表示で一時停止したい場合は、[P]キーを押す、もしくはマウスにて左クリックをすることでオートスキャンモード(詳細は、P.26 参照)は、ポーズ状態になります。この間、接続されたコンピュータの画面が表示されているだけで、キーボードとマウスの入力は無効です。入力の必要がある場合は、[スペースキー]を押してオートスキャンモードを解除してください。

◆ オートスキャンモードの解除は[スペースキー]もしくは[Esc]キーを押してください。

◆ F8 LOUT

OSD 画面で **F8 LOUT** の文字をクリックするか、キーボードで F8 を押すとログアウトします。ログアウトすると、OSD 操作を終了し、コンソール画面表示は消えます。ログアウト後に OSD 操作をする場合は、再度ログインしてください。

これは、**[Esc]**キーを使った OSD 表示オフ後に、OSD ホットキーで再表示する操作とは違います。

注意:

1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示した場合、OSD メインメニュー以外は表示されません。ユーザーネームとパスワードを入力後、使用可能になります。
2. ログアウト後に再び OSD を表示し、メニューからポートを選択しないで**[Esc]**キーを使用して OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には *Null Port* 無効ポートメッセージが表示されます。

ファームウェアアップグレードユーティリティ

Windows ベースのファームウェアアップグレードユーティリティ(FWUpgrade.exe)を使用し、KVM スイッチのファームウェアを自動的に簡単にアップグレードできます。

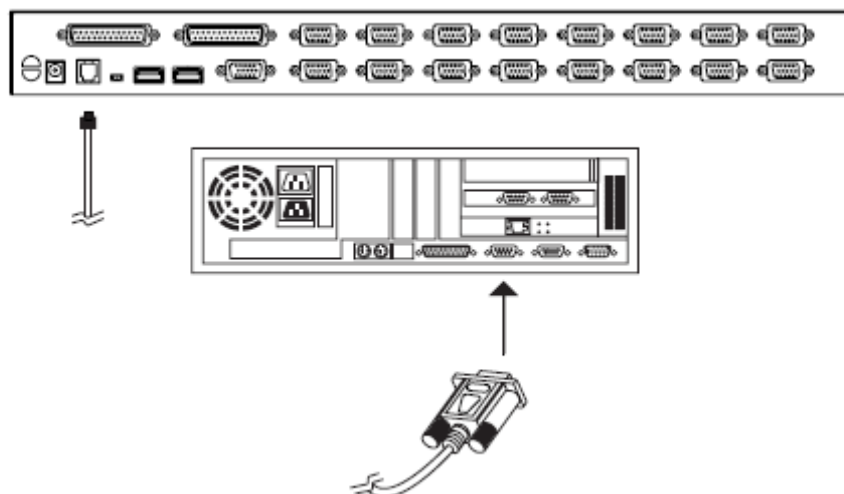
ユーティリティは、デバイス別のファームウェアアップグレードパッケージとして提供されます。最新のファームウェアは弊社 Web サイトで公開しておりますので、定期的に Web サポートサイトをご覧くださいようお願い致します。

<http://www.atenjapan.jp/>

はじめる前に

ファームウェアアップグレードをはじめる前に下記のように準備してください：

1. KVM に接続されていないコンピュータで弊社 Web サポートサイトにアクセスしてください。
2. CS-1708/CS-1716 用のファームウェアアップグレードパッケージを選択し、コンピュータにダウンロードしてください。
3. 製品同梱のファームウェアアップグレードケーブルを使用し、KVM 側ファームウェアアップグレードポートと、コンピュータ側 COM ポートを接続してください。



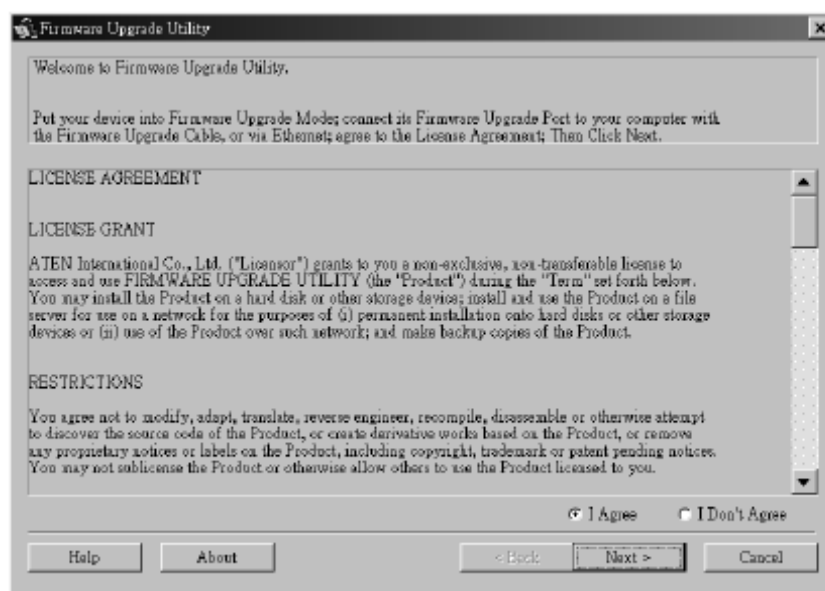
4. CS-1708/CS-1716 に接続されたパソコンをシャットダウン(電源オフ)してください。
5. KVM のコンソールから OSD 画面(P.28 参照)を表示し F4 ADM 機能を実行してください。
6. スクロールダウンしファームウェアアップグレード(P.41 参照)を選択して[Enter]を押し、その後[Y]を押してください。ファームウェアアップグレードモードの画面が表示されます。

アップグレード開始

ファームウェアをアップグレードします:

1. ダウンロードされたファームウェアアップグレードパッケージを実行してください - ファイルアイコンをダブルクリック、もしくはコマンドラインから実行してください。

Welcome Firmware Upgrade Utility の画面が表示されます:



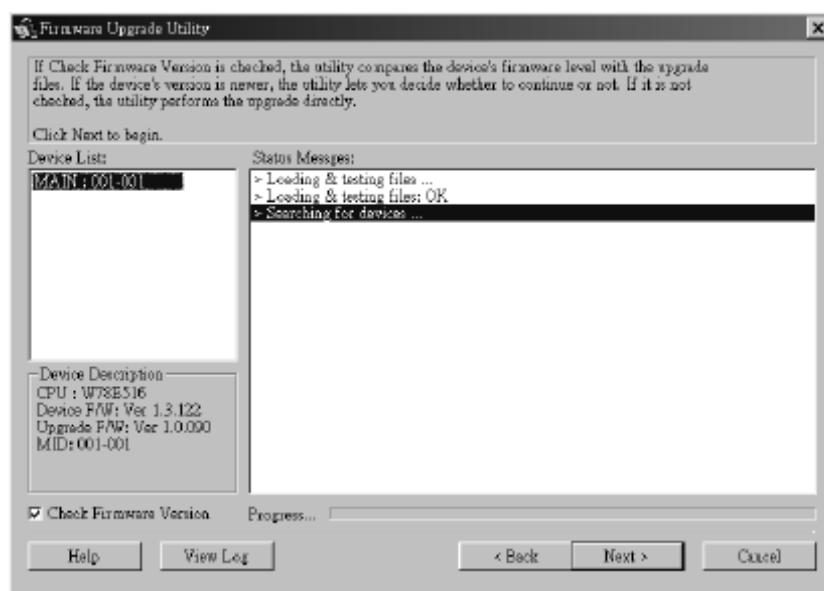
2. 使用許諾契約書を読んで頂き同意してください(「I Agree」をチェックすることで同意)。

3. 「Next」(次へ)をクリックしてください。ファームウェアアップグレードユーティリティのメインスクリーンが表示されます:

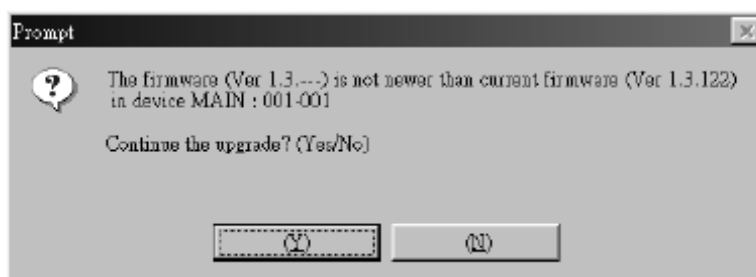


ユーティリティは接続先を調査し、パッケージからアップグレード可能なデバイスリストを表示します。

4. リストからデバイスを選択すると、デバイスの詳細が「Device Description」パネルに表示されます。



5. デバイスを選択後、「Next」(次へ)をクリックしアップグレードを開始します。



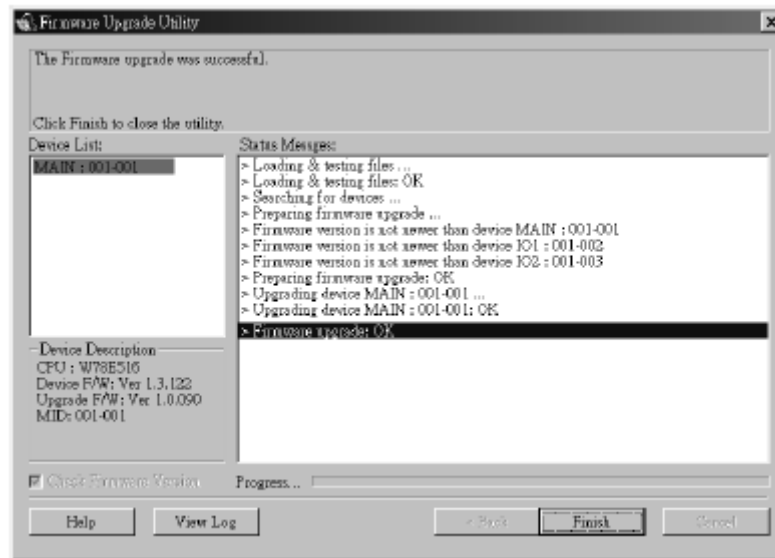
ユーティリティの「Check Firmware Version」にチェックが入っている場合は、デバイスのファームウェアのバージョンを検査します。もしインストールしようとするファームウェアのバージョンよりも、新しいバージョンを導入済みの場合は、「Continue the upgrade?」(「Yes」/「No」)の画面が表示されますので、続行/キャンセル(「Yes」/「No」)の選択をしてください。

「Check Firmware Version」にチェックが入っていない場合は、ユーティリティはバージョンを調べずに実行されます。

アップグレードの工程がメッセージパネルに表示され、進行状況はプログレスバーにて表示されます。

アップグレード成功

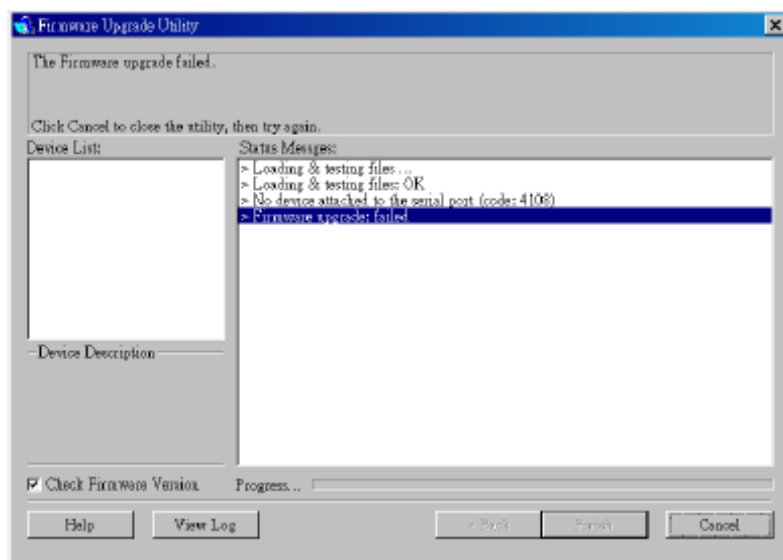
アップグレードが完了した後、画面表示にてアップグレードが成功したことを表示します:



「Finish」(完了)をクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを閉じてください。

アップグレード失敗

もしアップグレードが完了しなかった場合、ダイアログ表示にて再試行するかどうか表示されます。「Yes」をクリックした場合はアップグレードが再試行されます。「No」をクリックした場合は、「Upgrade Failed」(アップグレード失敗)と表示されます:



キャンセルをクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを閉じます。次の項を参照しファームウェアアップグレードリカバリーをしてください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

ファームウェアアップグレードリカバリーが必要となる代表的な 3 つの状況は以下の通りです:

- ◆ ファームウェアのアップグレードを始めたが途中で止めた時
- ◆ Mainboard ファームウェアのアップグレードが失敗した時
- ◆ I/O ファームウェアのアップグレードが失敗した時

注意:

カスケード接続しているユニットがアップグレードに失敗し、ファームウェアアップグレードリカバリーをする場合は、カスケード先から外して頂き、単体でリカバリーを実行してください。完了後は再接続して構いません。

ファームウェアアップグレードリカバリーを実行する場合、下記をご参照ください:

1. ユニットの電源アダプタをプラグから抜いてください。
2. ファームウェアアップグレードリカバリーのスイッチ(P.8 参照)を「Recover」の位置に入れてください。
3. ファームウェアアップグレードケーブル(製品同梱)を使用し、KVM 側ファームウェアアップグレードポートと、パソコン側 COM ポートを接続してください。
4. ユニットの電源アダプタケーブルを接続します。
5. アップグレードを開始します。手順はアップグレードの項目から参照(40 ページ)してください。
6. アップグレードが完了した後、もう一度ユニットの電源アダプタケーブルをプラグから抜いてください。
7. ファームウェアアップグレードリカバリーのスイッチを「Normal」位置に戻します。
8. ユニットの電源アダプタケーブルを接続します。

付録

下記の表は、マスタービューユニット(MV)の数とコントロールできるコンピュータの数の関係を示しています。

CS-1708 コンピュータ 接続表

MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ
1	1 - 8	9	65 - 72	17	129 - 136	25	193 - 200
2	9 - 16	10	73 - 80	18	137 - 144	26	201 - 208
3	17 - 24	11	81 - 88	19	145 - 152	27	209 - 216
4	25 - 32	12	89 - 96	20	153 - 160	28	217 - 224
5	33 - 40	13	97 - 104	21	161 - 168	29	225 - 232
6	41 - 48	14	105 - 112	22	169 - 176	30	233 - 240
7	49 - 56	15	113 - 120	23	177 - 184	31	241 - 248
8	57 - 64	16	121 - 128	24	185 - 192	32	249 - 256

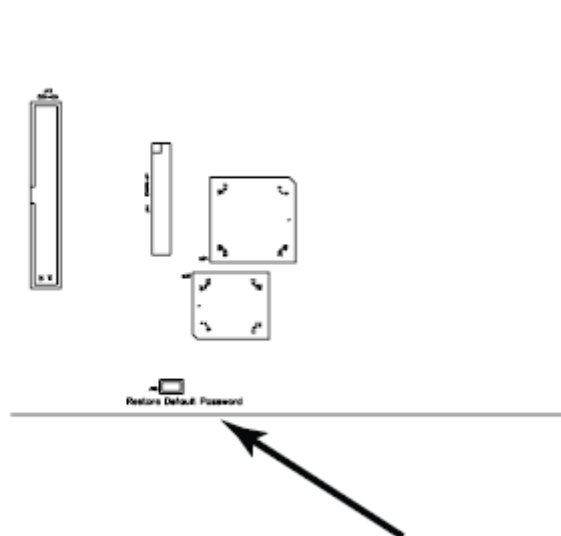
CS-1716 コンピュータ 接続表

MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ
1	1 - 16	9	129 - 144	17	257 - 272	25	385 - 400
2	17 - 32	10	145 - 160	18	273 - 288	26	401 - 416
3	33 - 48	11	161 - 176	19	289 - 304	27	417 - 432
4	49 - 64	12	177 - 192	20	305 - 320	28	433 - 448
5	65 - 80	13	193 - 208	21	321 - 336	29	449 - 464
6	81 - 96	14	209 - 224	22	337 - 352	30	465 - 480
7	97 - 112	15	225 - 240	23	353 - 368	31	481 - 496
8	113 - 128	16	241 - 256	24	369 - 384	32	497 - 512

ログイン情報の消去

もし万が一アドミニストレーター権限でログインすることができなくなった場合（ユーザー名とパスワード情報が損なわれたり、忘れてしまったりしたときなど）、以下の手順でログイン情報を消去することができます。

1. ユニットの電源を切り、本体ケースを開けます。
2. 図に示された位置にある「Default Password」と書かれたジャンパススイッチをボードの右のほうにセットします。



3. 本体ケースはそのまま電源を入れます。
電源を入れると LCD ディスプレイに以下のようなメッセージが出ます。

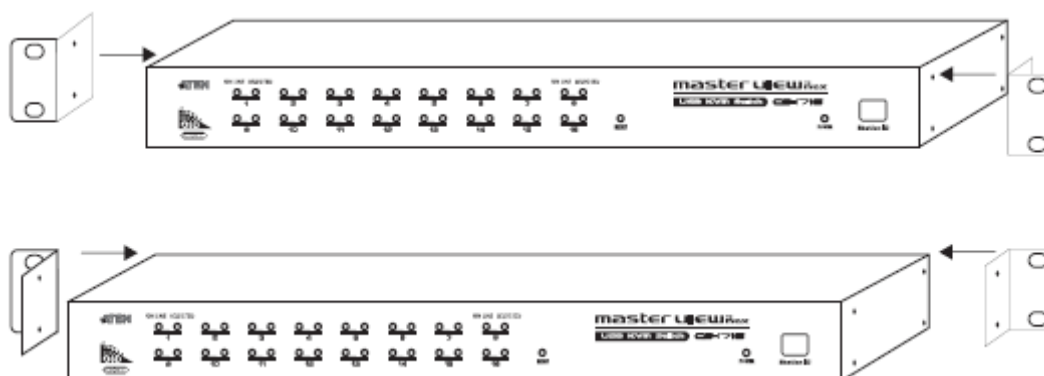
USERNAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.
PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE THE CASE, THEN RESTART.

4. 本体ケースを元に戻します。OSD ログイン機能は初回電源投入時と同様の手順となり（P.28 参照）、管理者とユーザーのパスワードをリセットすることができます。

ラックマウント

CS-1708 / CS-1716 は、19 インチシステムラックに1U サイズで設置可能です。取り付け金具はCS-1708 / CS-1716 の前後どちらにでもネジで取り付け可能なので、ラックの前面側または背面側にユニットが設置でき、大変便利で柔軟性に富んだ設計です。ユニットをラックに取り付けるには、

1. 下図の通り、取り付け金具を本装置の側面の前側または、後ろ側にネジで取り付けます。



2. 本装置をラックにスライドさせて入れ、ラックにしっかりと取り付けます。

仕様

機能		CS-1708	CS-1716
コンピュータ 接続数	ダイレクト接続時	8	16
	デジチェーン 接続時	最大 256	最大 512
コンソール側 コネクタ	キーボード	USB type A × 1	
	マウス	USB type A × 1	
	モニタ	HDB-15 ピン メス × 1	
コンピュータ側コネクタ		SPDB-15 ピン メス × 8	SPDB-15 ピン メス × 16
LED	オンライン	オレンジ × 8	オレンジ × 16
	選択	グリーン × 8	グリーン × 16
	ステーション ID	イエロー 2 桁	
	電源	ブルー × 1	
デジチェーン	チェーンイン	DB-25 オス × 1	DB-25 オス × 1
	チェーンアウト	DB-25 メス × 1	DB-25 メス × 1
ファームウェア アップグレード		RJ-11 × 1	
ポート選択		OSD (オンスクリーンディスプレイ) / ホットキー	
電源仕様		100V ~ 240V 50Hz/60Hz; DC5V	
消費電力		5.5W	6W
スキャンインターバル (OSD 選択)		5 秒 (デフォルト) ; 1 ~ 255 秒 (ユーザー設定)	
VGA 解像度		最大 2,048 × 1,536	
動作温度		0 ~ 50°C	
保管温度		-20 ~ 60°C	
湿度		0 ~ 80% RH 結露なきこと	
ケース材質		メタル	
重量		2.7 kg	2.9 kg
サイズ (L X W X H)		432 × 154 × 45 mm (19 インチラックマウント 1U)	

工場出荷時設定

製品の工場出荷時各種設定は下記の通りです。

設 定	デフォルト 値
OSD ホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID ディスプレイポジション	右上角
ポートID ディスプレイ期間	3 秒間
ポートID ディスプレイモード	ポート番号及びポートネーム
スキャン時間	5 秒間
スキャン/スキップモード	全て
スクリーンブランカー	0 分間 （使用できません）
ログアウト タイムアウト	0 分間 （使用できません）
発信音	Y （有）
アクセス可能なポート	F(フルアクセス)全てのポートのユーザー全て
オペレーションシステム	PC
キーボード言語	自動設定

トラブルシューティング

症 状	考えられる原因	処 置 方 法
インストール後 Sun/Mac コンピ ュータが起動し なくなった	ポートの OS 設定が正しくない	Sun や Mac のコンピュータを導入しているならば、コンピュータを接続して起動する前に、この機能を使用して各ポートに接続された OS を正しく指定してください。そうしないと正常に起動しません。詳細は OS の設定 (P.37) をご参照ください。
マウスまたは キーボードが 動作しない	マウスまたはキーボードのリセットが必要	コンソールポートからケーブルを抜いて、それをまた元の所に差し込んでください。
	ケーブルがコンピュータに正しく接続されていない	KVM スイッチからコンピュータへのケーブルが正しく接続されているか確認してください。
	KVM スイッチのリセットが必要	接続されているすべてのデバイスの電源をオフにし (P.19 参照)、KVM スイッチの電源をオフにし、5 秒間待ってから再起動してください。
デバイスが 認識できない (ウィンドウズ)	ウィンドウズのデバイス 認識タイミングの問題	1.コンピュータの USB ポートから KVM のケーブルを抜いてください。 2.[コントロールパネル] [システムの設定] から「不明なデバイス」のエントリを削除してください。 3.KVM ケーブルを元通りに挿せば、ウィンドウズが新しいデバイスを認識します。

製品保証規定

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品の販売店は、製品および本ドキュメントの使用に関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる表示・保証も行いません。

弊社は製品および付属のソフトウェア・ドキュメントについて、予告なしに改良・改訂を行う権利を有します。詳細については販売店までお問い合わせください。